

6月は、男女共同参画推進月間です。



男性の料理教室（藤井町）

男女共同参画とは、「女だから」「男だから」という理由だけで生き方を制限されることなく、男女が互いによりきパートナーとしてあらゆる分野に対等に参画し、個性や能力を発揮し、かつ責任を分かち合うことによつて、ともに豊かな人生を築くことです。

韮崎市男女共同参画推進委員会では、「輝いて ひらめいて 韮崎プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、家庭、職場、地域、学校など社会の様々な分野における課題解決に向けた活動を行っています。

男女共同参画推進委員としての1年間の活動を通じた感想をお寄せいただきました。

広がる地域の 男女共同参画

平成23年1月、藤井公民館活動の一環として、食生活改善推進委員会と男女共同参画推進委員会の共催で、「男性の料理教室」を初めて開催しました。

参加男性は19名、食改推からは13名、指導者に市の栄養士、男女共同参画推進委員長を迎え、藤井公民館で実施しました。

包丁さばきを褒められた人、手を切らないでと指摘された人、カレー粉の計量をすりきりしなかった人など賑やかに、一人当たり565キロカロリー、食塩2.9gの料理を1時間半で完成させ、とてもおいしくいただきました。

参加者のほとんどは家庭で料理をしていないようでしたが、今回の体験を契機に、料理を試みたい気持ちが芽生えたようです。

栄養士さんから食事バランスの説明の他、調味料や料理道具などの基礎的な説明をしていただきました。

来年度も実施したいと思

ます。何人の男性が「厨房に入った」と報告してくれるかとても楽しみです。

— 藤井町推進委員

共に豊かな人生を 築くために

韮崎市男女共同参画推進委員会に参加し、市内各地区の方々と交流を深めてきました。アドバイザーの向山建生先生の研修を受けたり、円野町かかし祭りに「届け宇宙へ、男女共同参画の声」をテーマにかかしを作成し、努力賞をいただきました。12月11日には、第13回「こらさきヒューマンフォーラム」を開催し、会話劇「俺の飯は？」懐かしいあの頃のあの歌、地域リーダー養成講座等発表することができました。

この推進委員会を通して「女ならこつすべき」「男ならこつすべき」というような男女の役割分担意識を解消し、地域社会または、家庭において、男女が豊かな人生を築くためにみんなで一緒に考えていくきっかけ作りになることを願っています。

— 旭町推進委員

誰にとっても暮らしやすい
男女共同参画社会

内閣府の調査で、「男性の方が社会の中で優遇されている・どちらかといえば優遇されている」と男性の65%、女性の78%の人が答えています。しかし、劇場やレストランに行ってみると、客は圧倒的に女性です。過労死する人はほとんど男性ですし、自殺する人も四対一の割合で男性が多いのです。

男性は家族を養わなければならない、子育ては母親がするもの、家事は女性がするもの、男は強くななくてはならない、女は素直で優しくなくてはならない等の感覚が、私たちの頭の中にあるのも事実です。

男は男らしく、女は女らしくと教えられてきましたが、男女の枠を取り払い、人間としてその人の能力、個性を尊重し、家庭や地域や職場で責任を持ち合う社会が「男女共同参画社会」です。その人の能力や個性を生かして家庭や地域の仕事を分担することで

その時に問題になるのが、男性では基本的な家事能力が不足していること、女性では役職を嫌い、男性の陰に隠れて責任をとるつもりがないことです。今まであまりやらなかったことをやるうとするのは努力が必要ですが、自立した人間になるためお互いに努力したいと思います。

少子高齢化がますます進む社会の中で、女も働かなければ社会は立ち行きません。男性は家庭に、女性は社会にもっと関わり、男女が共に豊かな生活を送れるよう、男女共同参画社会の実現を目指しましょう。

一 穴山町推進委員

変えよう自分と未来

男女共同参画、今までは女性の家庭、職場についての地位向上、雇用面での男女平等の改善が主なことではないかと考えていました。

しかし、これは女性だけの問題ではないと思い始めたところでした。職場においては、3K(きつい・汚い・危険)と言

われた男性の職種に女性が希望して進出したのをきっかけに、改良改善した職場は、明るく働きやすくなり、生産も向上した例も多くあるそうです。これを聞いた時、女性たちを受け入れた男性が対等のパートナーとして認めたことが大切な要素だと思いました。

一方で、家庭内暴力が社会問題となっており、原因は様々であると思いますが、これは個人的問題の面が強く、他人が介入することが困難で、離婚してから暴力が原因だったと知ることがあります。

近くにおいても暴力被害に気づけず、また、知っていても何もしないのが現実で、女性や子供達は悲しみや、怖さをただ我慢するだけの現状が多く存在します。制度があることを広く多くの人達に知ってもらい根付くことが願いです。

一 大草町推進委員



男女の役割分担意識

私は、男性は会社で仕事をし、女性は家事育児、時には介護をするのが当たり前のことだと思っています。何もわからぬまま男女共同参画について学び、活動するうちに私の考えは少しずつ変わってきました。

今や社会で活躍する女性が増え、男性が家事全般を行う「主夫」や、女性に代わって休暇を取り、育児に携わる「イクメン」などの存在も意識されるようになってきています。今までは妻が体調不良の時程度しか家事をすることがなかった私も、最近では自ら進んでするよう心がけています。

先日、組による新年度の役員選任の際、区長より「これからは可能な限り女性にも様々な役職を積極的に引き受けて欲しい。」との意見がありました。私の住む地域では今まで女性の組長が選出されたことはありませんでした。その理由として、夫のいない妻は組長が免除され

ていたからです。

長い間継承された習慣を変えていくには時間がかかることと思いますが、私達の活動が男女共同参画社会実現へのきっかけになれば幸いです。

一 龍岡町推進委員

育てる男が家庭を変える！
社会が動く！

育児をする男性 “イクメン”



イクメンとはイクメンが変化したもので、育児を積極的に率先して行う男性、育児を楽しんで行う男性を意味します。

産休による出産後、女性が引き続き育児を行うのが一般的でしたが、近年は、男性が育児休業基本給付金などの制度を利用し、育児休暇をとって積極的に育児を行う男性が増えてきました。こういった男性を賛美する言葉として生まれたのがイクメンです。

ただし、休暇をとって育児をしたい男性は多いものの、収入(給与)が下がる、会社の評価が低くなるといった理由から、まだまだ日本における事実上のイクメンは数少ないのが現状です。

活動から 見えてきたもの

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

い機会となり、フォーラム入場者にも調査結果には好評をいただいたと思っております。

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」



東日本大震災への

支援活動について



「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」



「活動から見えてきたもの」

「活動から見えてきたもの」





いっしょに考えてみよう

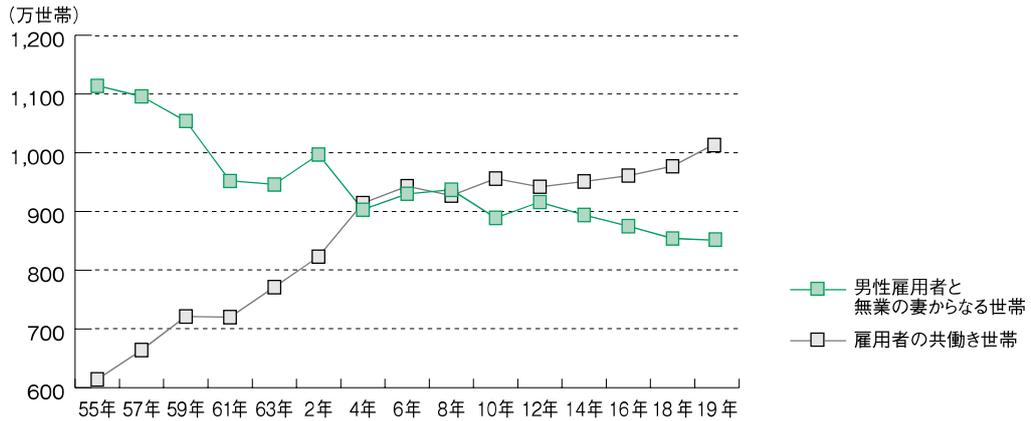


ライフスタイルは、家庭ごとに異なりますので、夫婦の役割分担もそれぞれです。
しかし、夫婦の一方が多くの負担を抱えており、サポートを求めているかもしれません。
この男女共同参画推進月間にもう一度、お互いの役割分担について話し合ってみませんか？

あなたの明るい未来のために！

グラフから見る男女共同参画（内閣府調査参考）

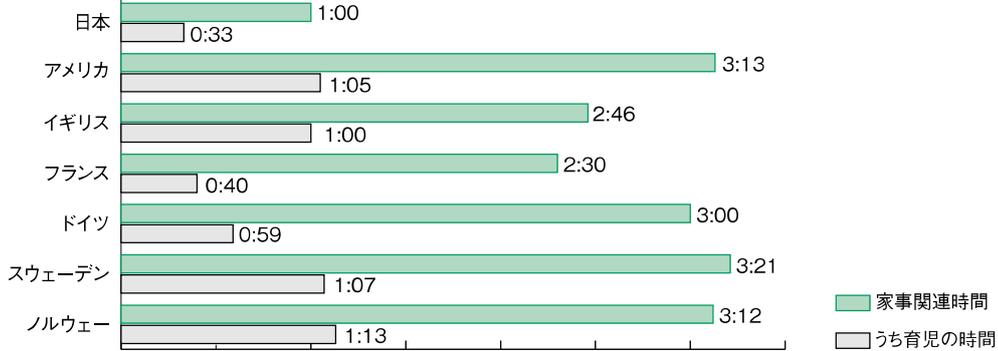
共働き世帯数の推移



共働き世帯は昭和55年の614万世帯に対して、平成19年には1,013世帯となっています。
“女性は家事”という意識から、徐々に変わってきています。

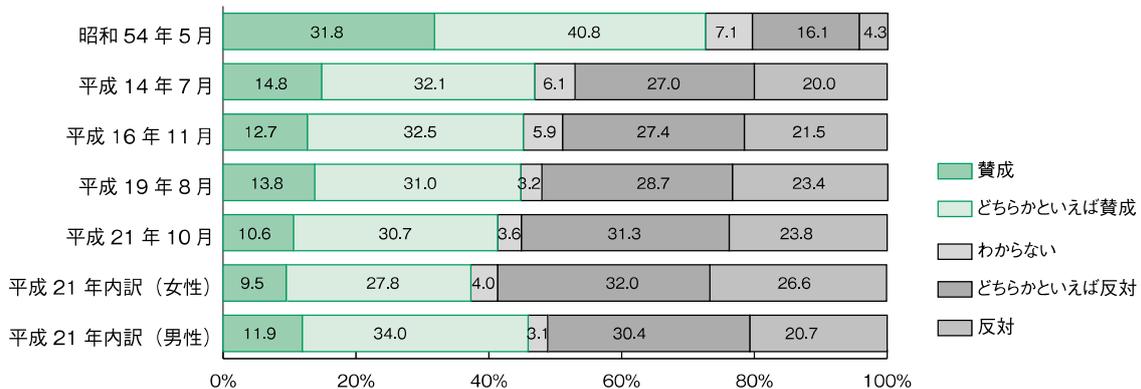
男性の家事・育児

6歳未満児のいる夫の家事・育児時間（1日あたり）



日本人男性の家事・育児の時間は、他の先進国に比べ、家事、育児の時間が低くなっています。
女性も男性と同じように働く中で、男性も家事・育児に積極的に参加することが大切です。

固定的役割分担意識（夫は外で働き、妻は家を守るべきである）



男は仕事、女は家事という固定的役割分担意識調査では、平成21年時点でおよそ6割が反対意見となっています。